

進路だより

Challenge the Status Quo

(第1号) 進路指導部

過去3年間の国公立大学及び主な私立大学の合格件数

【国公立大学】

大学	59期生	58期生	57期生
北海道大	1	1(1)	
帯広畜産大		1(1)	
東北大		1	
秋田大	1(1)		1(1)
茨城大	2(1)		1
筑波大	4	2	8
宇都宮大	1	5(1)	4
群馬大	1(1)	1	
埼玉大	26	21(1)	19(1)
千葉大	5(1)	5	7
東京海洋大		1(1)	2
お茶の水女子大	1	1	
電気通信大			2
東京大	1		1(1)
東京外国語大	2(1)	3	4(1)
東京学芸大	7	5	6(1)
東京工業大	1(1)		
東京農工大	3(1)	3(1)	1
横浜国立大	1	2	1
富山大		1(1)	
金沢大		1	
新潟大	1		
信州大	3	1(1)	1
愛媛大		1	
宮崎大			1(1)
鹿児島大	1		
前橋工科大		1(1)	
高崎経済大	2	1	1
埼玉県立大	10	6	14
千葉県立保健医療大	2	1	
首都大学東京	9	2	6
都留文科大	1		
長野看護大		1	
大阪市立大			1
国立看護大	1		1
防衛大	1		
防衛医科大			1
合計	88(7)	68(9)	83(6)

【私立大学】

大学	59期生	58期生	57期生
青山学院大	19	14	25(1)
学習院大	29(4)	24(2)	20(4)
北里大	2(1)	6	5(2)
杏林大	10(1)	4	13
慶應義塾大	5	6(3)	5(1)
國學院大	16(2)	19	24(2)
国際基督教大	1(1)		1
駒澤大	23(3)	10	38(5)
芝浦工業大	46(2)	36(6)	27(5)
順天堂大	7(2)	2	2
上智大	11(1)	9	12
女子栄養大	3	6	3
成蹊大	24(4)	22(2)	12(1)
成城大	20(6)	19(1)	28(1)
専修大	11(1)	12(1)	17(2)
中央大	29(3)	46(5)	40(5)
津田塾大	11	7(2)	15(2)
東京女子大	20	18(1)	26(1)
東京電機大	38(3)	20(2)	26(5)
東京農業大	33(3)	24(3)	30
東京薬科大	5(1)	2	
東京理科大	23(4)	16(6)	35(6)
東洋大	116(5)	107(10)	107(5)
獨協大	36(1)	26	50(4)
日本女子大	36	15	31(1)
日本大	89(10)	95(10)	95(7)
文教大	29(3)	36	33
法政大	51(6)	74(9)	78(6)
星薬科大	1	2	
武蔵大	15	22(1)	30(2)
明治学院大	9(1)	8(1)	11(1)
明治大	39(4)	52(5)	92(15)
明治薬科大	6(1)	3	6(1)
立教大	37(2)	48(5)	62(4)
早稲田大	15(3)	23(1)	36(13)
その他	342(15)	247(23)	371(23)
合計	1207(93)	1080(99)	1406(125)

数字は現役+浪人の合計数
()内は浪人(内数)

蕨高の平成30年度入試結果(59期生)

平成30年度入試の国公立大学の現役合格者は81名で、蕨高校創立以来の最高記録となりました。いわゆる国立難関大学(旧帝大+東工大・一橋大・神戸大)では、東京大学(理科一類)と北海道大学にそれぞれ現役で1名、また浪人生ですが群馬大の医学部に1名が合格しました。特筆すべき点は後期試験で9名が合格し、最後まであきらめない、蕨高生らしい粘り強さを見せてくれたことです。後期試験は3月12日に行われ、合否がわからないまま15日の卒業式を迎え、合格発表は20日という日程のため、精神的な強さが要求されます。国公立大学を目指している人は先輩たちを見習って後期試験まで頑張るつもりでください。地元埼玉大の合格者は26名で、国公立大の中では最大の合格者数でしたが、北海道大や新潟大、信州大、鹿児島大などの全国に広がって合格者が出たのも今年の特徴です。特に理系の国公立大志望者は全国を視野に入れて大学を選ぶべきです。ここ数年、理系は大学院まで行くことが当たり前になっているので、地方の国公立大を出た後、大学院は東京大や東工大のような東京圏に戻ってくることをお勧めします。

一方、私立大では、GMARCHの現役合格者が青山学院大と学習院大を除いて前年よりも減少しました。原因は先日の進路説明会でも話しましたが、「定員厳格化」の影響が考えられます。これは、定員の1.1倍を超えて入学させたらその分、国からの補助金を減らすという規制ですが、来年度入試は定員の1.0倍が基準となり、各大学の合格者数はさらに減ることが予想されます。すでに私立大を第1希望としている人は予想できた状況なので問題はないと思いますが、科目を減らして国公立大から私立大に転換しようと考えている人はよく考えてから判断してください。安易な気持ちからの私立大受験はかなり危険だと思います。

早慶上理（早慶上智＋東京理科）の合格者数は例年並みでした。59期生は模試の成績も高く、本来ならばもっと合格者が出てよかったのですが、元々の受験者が少なかったことが原因の一つです。国立難関大にしろ、早慶上理にしろ、当たり前ですが、受験しなければ合格はしません。たとえ、模試の判定が悪くても、その大学が第1志望ならば絶対に受験するべきです。蔵高生は自分の能力を過小評価する傾向があります。自分の力を信じて、常に目標は高く持ってください。今年の『進路のしおり』（5月中旬に配布）の受験体験記を読めばわかりますが、常に挑戦しようという気概を持つ者が合格を勝ち取っています。

蔵高生のここ数年の進路実績にはめざましいものがあります。先輩にできたのだから後輩にもできる。それが伝統の力です。君たちも挑戦を続けて、新たな伝統を創り出し、後輩たちに更なる「勇気」と「誇り」を残して卒業してください。

進路指導室の資料紹介

今年度からリニューアルしました。役に立つ資料を紹介します。

①大学案内

各大学の案内（パンフレット）が分類されています。昨年度よりも大学の数が増え、充実しました。

②受験雑誌・情報誌

センター試験データ集、大学入試動向など多数。就職状況など大学進学のための資料もあります。

③過去入試問題集（赤本など）

赤本は過去5年分（2014年度版～2018年度版）があります。借りたい人は先生に声をかけて、貸出簿に記入してください。一度に3冊まで、1週間、借りられます。今年度版は秋頃に入荷します。秋になると、貸出件数が急増する（昨年は1日で300冊を超える日がありました）ので、今のうちに借りて、コピーをしておくといいでしょう。本棚にない大学も注文して取り寄せることができます。

④パソコン

4台入りました。インターネットで大学などの情報も自由に検索できます。プリンターも設置しました。10月以降は「コンパス」や「バンザイ」をインストールしますので、合格判定を調べることができます。

⑤その他、短大や専門学校（特に看護医療系）の案内も多数あります。

⑥先輩（56～59期生）の受験レポート（超おすすめ！）

先輩の受験報告書で、推薦・AO、一般受験別に整理してあります。受験勉強生活1年間の学習状況はもちろん、心理状態も詳しく書かれています。オススメの参考書や問題集、後輩へのメッセージもあります。今年の卒業生もこのレポートも見るために、連日多数、進路指導室を訪れていました。併願先の大学も詳細に載っているので、12月に受験校を選ぶ際にも大変役に立ちます。

◆「進路指導室」利用上の注意

- 入室・退出の際には、明るく知性あふれるあいさつを。
- 進路指導室は資料を閲覧したり、調べたりする所なので、ここで勉強することはできません。
- 資料や書籍は無断で持ち出さないでください。
- もちろん進路相談も受け付けています。隣の指導室にいる先生に気軽に声をかけてください。

3年生になって1ヶ月が過ぎて...

自学自習の精神は身につきましたか？

自分の頭で考え、行動することこそ、これからの人生で必要なことです。人からあれこれ指示されなくても、自分で課題を見つけ、1つずつ克服していくのです。受験勉強を通じて、これからの社会を生き抜く力を身につけましょう。頼りにするのは「自分」です。勉強して自分の能力を高め、「頼れる自分」を作っていきましょう。

受験は補欠なき団体戦であることに気づきましたか？

ヒトのやる気は環境によって大きく左右されます。したがって、学習していく上でクラスの雰囲気はとても大切になります。学ぶ雰囲気作りが、結果に結びつきます。大学入試は競争入試ですが、クラスメイトはライバルではありません。ライバルは全国の高校生です。ぜひとも早い段階で、良い雰囲気のカラスを作ってください。補欠はいません。全員がレギュラー（正選手）です。

目標を定めましたか？

志望校を決めることが、受験勉強の第一歩です。受験勉強は「短期決戦」の定期考査とちがって、長期間にわたる持久戦です。ここで欠かせないのは、努力を持続させるための強力なモチベーション（動機）です。受験勉強は、学校の成績や模試の偏差値を上げるためにやるものではありません。それは、最初から最後まで「行きたい大学に受かる」ためにする勉強です。「受かりたい！」という強烈なモチベーションをエネルギー源にして進めるのが、受験勉強です。

情報を収集することを怠ってはいませんか？

受験勉強は「情報戦」です。問題集を選ぶにも勉強法を選択するにも、良質の情報にめぐり会えるかどうかで、結果に大きな差が出ます。志望校を選ぶ段階でも同じです。たいてい情報を集めずに志望校を選んでしまうと、後悔することになります。

志望校選びで最も大切なことは、「自分がとことんホレ込める大学を見つけ出す」ことです。「何となくこの大学に行きたい」ではなく、「絶対にこの大学に行くぞ！」という熱い思いを抱いていれば、つらい受験も耐えられます。

まずは行きたいと思う大学の情報をしっかりと集めましょう。同じ学科でも大学によって学ぶ内容が大きく異なることがあります。大学案内や先輩の受験レポート（いずれも進路指導室にある）をよく読み、大学のホームページでも確認しましょう。入試制度の変更や受験生の志望動向の変化にも注意を払っておく必要があります。情報不足による失敗は愚かなことです。調べるという行動を起こすこと自体、受験勉強に踏み出す第一歩なのです。



模試を活用しよう！

いよいよ5月6日（日）に3年生最初の全員模試があります。4月12日の進路説明会で模試を受ける意義を確認しました。ここでは模試の効果的な活用法を考えてみましょう。

1 模試を受ける目的と心構えを持つこと

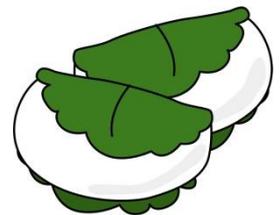
- ・勉強の成果と弱点を確認して、その後の勉強につなげる。

2 本番試験の気持ちで受けること

- ・試験の雰囲気（特に校外模試ではアウェイの雰囲気）に慣れ、本番で最大限の力が発揮できるようにする。
- ・時間配分や答案の書き方の練習をする。

3 合格判定を賢く利用する

- ・現在の学力と志望大学との距離を知り、自分の成績を客観的に判断する。
- ・偏差値よりも素点を気にする。志望校まであと何点とれば...と考える。



4 模試当日の夜は自己採点を行うこと

- ・センター試験の自己採点の練習をする。
- ・ケアレスミスやできなかった問題はすぐにやり直して、同じ間違いは繰り返さない。

5 問題・学習の手引き・成績表は保管すること

- ・模試の問題は良質の問題集であり、学習の手引きは受験に必要な重要事項を詳しく解説してある立派な参考書となる。
- ・成績表は自分の弱点傾向が一目で分かり、勉強の範囲も知ることができる。

6 模試の意味は失点箇所の復習にある

- ・模試は3回見直す（当日→答案返却時→2か月後）。
- ・模試は何よりも復習が肝心。間違えたところを復習することで苦手分野を克服できる。

今回の河合塾の模試はさっそくアウェイの模試となります。すべての模試にも言えることですが、前向きな気持ちで受けに行きましょう。センター試験の自己採点が間違っていたために、国公立大や私立大の出願に失敗した先輩もいます。帰宅後の自己採点は必ずやりましょう。

先輩に学ぶ成功と失敗（「59期生受験報告書」より抜粋）

- 1 この時期の学習プランは、基礎固めを重視し、1週間・1か月単位など、大まかに柔軟に計画する。
- 2 定期考査をペースメーカーにするのも効果的。
- 3 授業を大切にし、教科書、授業ノート、学校の参考書・問題集で夏までに基礎を固める。
- 4 参考書・問題集は1冊を繰り返し、完璧に仕上げる。あれこれ手を出しすぎると、混乱し勉強のペースが乱れる。
- 5 基礎が固まる前に応用問題に手を出さない。
- 6 苦手科目の対処方法は、先生に相談する。
- 7 模試の復習は必ず行い、間違えた問題をノートにまとめる。